

2018年3月定例自然観察会実施報告書

2018年3月12日

六甲山自然案内人の会 4班 山田雄二

1 : 概要

- ① 実施日時 2018年3月11日(日) 午前9時30分～午後2時30分 晴天
- ② テーマ 太山寺周辺の自然と歴史を楽しむ
- ③ コース 学園都市駅～貝谷大池～旧バス道～蝶の丘～なでしこの湯～太山寺仁王門
- ④ ポイント 学園都市駅から市街地の植栽された植物や旧バス道沿いの陽光性植生、昼食後は照葉樹林の断面を見るような道沿いの植生を観察する。そして最後に農道沿いの春の草本など変化に富んだ植生を観察。起伏の少ない市街地近くの観察コースを神戸唯一の国宝建築物のある太山寺まで歩く。
- ⑤ 参加者 ビジター60名+会員40名=100名(会員の内4班員は19名)
参考:自主研修会(3月4日)参加会員数42名(内4班員17名)
- ⑥ 配布資料 観察会ルートマップ及び植物リスト
- ⑦ 班リーダー
ビジター1班 竹上、ビジター2班 栃尾、ビジター3班 長尾、ビジター4班 坪田(チ)
ビジター5班 陽川(敬称略) 会員班は松本氏にお願いした。

2 : 観察記録

- 学園都市駅前のユニバードームに9時30分集合。(4班員は8時45分から準備)
- 今回のコースは途中トイレが無いことから事前にトイレを済ませていただくことをみなさんに繰り返しお願いした。ビジター班を5班にまず分け、引き続きコースの説明と注意事項を行った。ビジター参加者が多いこともあり各ビジター班の人数把握を念入りに行った。



4班員の打ち合わせ風景

ビジターへの説明風景

- キャンパススクエア内の植栽の観察、特にセコイアメスギ(北アメリカ原産)が狭い花壇に植栽されていることを踏まえ、その特性などから観察を開始する。
- 街路樹のケヤキの枝の分枝特性や地衣類、イチョウの短枝、ヤマボウシの仮軸分枝、クスノキなどを観察。
- サクラの冬芽、セイヨウニンジンボク、マテバジイの昨年の花軸の観察などを進め旧バス道まで観察を進める。
- 旧バス道からは道の両側のパイオニア植物や植栽された緑化木を中心に観察を進める。まずはスイカズラだ。花の蜜が甘く子供が花をとって蜜を吸うことから「スイカズラ」、そして冬でも葉を丸めながら耐え忍ぶことから「忍冬」そして花が咲き始めは白色から次第に黄色に変化することから金銀花とも呼ばれる。
- 次はオオバヤシャブシだ。ちょうど雄花が伸長し観察に適した時期を迎えたようだ。よく見ると目立つ雄花

より枝先に小さな雌花が顔をのぞかせている。オオバヤシャブシは葉芽、雌花、雄花の順に枝先に着く。



セコイアメスギの観察



街路樹のクスノキの観察



神戸のユーカリ説明



中学生たちも街路樹の説明を聞く

- このあたりはイボタノキが多い。イボタから採る動物性のロウ「イボタロウ」の説明、イボタノキをはじめイボタノキ属の植物を食草とするイボタガの成虫のフクロウ様擬態、そしてイボタノキの葉に見られる丸く食害された跡を見て「シマクロハバチ」の仕業だろうと説明。
- 廃道沿いの陽光地の特性でツル植物が多い。吸盤やヒゲで絡むものもあるが巻き付いて伸長する場合の巻く方向に関して左巻き、右巻きの意味を説明。左肩上り、右肩上がりと理解すると分かりやすい。
- カマキリの卵囊を発見。このあたりで多いのはハラビロカマキリ、オオカマキリ、チョウセンカマキリの3種でそれぞれ卵囊に特徴がある事を説明。この観察経路ですべての卵囊が見られた。
- トウネズミモチは在来のネズミモチと違い外来種で緑化木として植えられた。在来種より生育が旺盛で果実も多く着け繁殖力も強いので在来種を脅かしている。住宅地近くではほぼトウネズミモチで占められておりネズミモチは比較的攪乱の少ない林内に残るばかりだ。ネズミモチの名称は実がネズミの糞に似ているからと言われる。ここで参加者の方からの情報で「よめたたき」「よめにくわすな」の「よめ」は「嫁」ではなく「夜目」の意味だと教えていただいた。「夜目」は暗がり目で目を光らせるネズミの意味との事。



スイカズラの観察



観察風景

- トゲだらけの幼木を観察。後でトウカエデの成木と比較する。
- 緑化木として導入されたイタチハギ。マメ科で窒素固定能力があり以前は盛んに裸地の緑地回復用に利用。



観察風景



オオバヤシャブシ花穂

- 11時過ぎに蝶の丘に到着。ここではマテバジイとタブノキの葉や冬芽の比較、エンジュの樹皮や陰芽の観察、クサギの冬芽とクサギ染めの話。手に取れるぐらいのところに見られるスダジイの「椎の実」の観察。モミジバフウ（アメリカフウ）の枝の翼（ニシキギなどでも見られる）が何のためにあるのか問いかけ、観察する眼を向ける。



椎の実の観察



会員班の観察風景

- 早い班は11時40分頃昼食場所に到着。最後の班は12時10分頃となった。ビジター班ごとにまとまって昼食をとり、この間に4月の定例自然観察会のチラシ配布とエキスパート講座の受講申し込み用紙の配布を案内人の会6班のみなさんが行った。12時30分からは田丸さんが2回にわたり近辺の地質の説明を行う。「山、海に行く」の開発造成の時代にこのあたりの地盤掘削により地質調査が行われ多くの地質学上の知見があった事。そして高塚山から太山寺を結ぶ位置に高塚山断層があり、ちょうどこの辺りの地層は神戸層群と大阪層群の境目にあたり太山寺の裏山の照葉樹林のあたりの地層は六甲花崗岩が部分的に露出している事などが説明された。そして地質の説明が終わった班から順次午後の観察会が始まった。



昼食風景



田丸さんによる地質説明

- イヌシデの観察から始まり常緑性グミ各種の形態比較観察。グミはグイミから転じグイはトゲの古名で杭（クイ）と同義と考えられる。ムクノキに絡まったツルウメモドキが美しい。この辺りから道の右側に照葉樹林の構成種が見られスダジイ、コジイ、タイミンタチバナ、カナメモチ、クロバイ、ナナミノキ、リンボクなどの枝葉を近くで確認できる。



ウバメガシの殻斗観察



照葉樹林の構成種の観察

- 太山寺由緒の看板のある東屋を過ぎ歩道の無い車道の右端を一行縦隊で下ると右に折れ農道に入る。ここは既に春の里道のイメージでオオイヌノフグリ、ナズナ、ハコベなどのかわいい小花たちが迎えてくれた。タンポポでも今や少数派になってしまったカンサイタンポポが春の日差しの中で嬉しそうに咲きだしていた。



遠くに太山寺の照葉樹林を見る



農道脇の草花観察



カンサイタンポポ



長尾さんの太山寺歴史説明

- 1時45分頃最初の班がなでしこの湯に到着。トイレを拝借。
- 2時には最初の班が太山寺仁王門に到着したが後の班の到着を待って長尾さんが太山寺の歴史の説明を行いその後解散とした。
- 解散後4月の担当班6班に観察用具の引き継ぎを行う。
- 多くのみなさんは川井さんの先導で伊川沿いの道を学園都市まで歩いて帰路についた。また残りの人はバスで伊川谷駅または名谷駅へと向かった。

3 : 感想

- 今回の定例自然観察会はビジター参加人数が60名に達し、観察もビジターからの質問や情報提供などもあり双方のコミュニケーションが順調で天候も快晴で良い観察会となった。
- 今回、中学生5名がビジターとして参加した。理科部の活動の一環として参加したようだが今後このような若い層の参加が増える事を期待したい。最後に仁王門のところで待ち時間が生じたが、今後こういった場合に対処できるようなクイズなどを準備できれば良いと思う。今後の課題だ。